

「私が考えるこれからの酪農について」

鳥取県立農業大学校
農業経営学科 1年 山本 瑞喜

酪農は、牛から搾ったミルクを牛乳やチーズなどの乳製品に加工し、活用できる用途がとて多いと思います。そしてアイデア次第では、様々な乳製品を消費者の生活に今以上に定着させることができると私は考えています。でも第一に考えないといけないのは、安全性の問題だと思っています。去年から食品の偽造の問題が多く報道され、全国各地に安全性が十分でない食品が出回っています。どんな食品を開発・生産するにしろ、安全な食品を消費者に届けなければ、消費者の危険はもちろん、生産者にとっても不利益なことにはかならないと思います。どうやったら安全な食品を消費者に提供し続けることができるのか？それは、正確な表示はもちろんのこと、食品の大本を提供してくれる乳牛の管理を正確に行っていくことだと思います。放牧場で放牧または、騒音等をなくしてストレスをできるだけ与えないようにしてやったり、適切な病気の治療をしてやったり、飼料の適切な管理をしてやることなど、課題は多くあると思います。私は、飼料の管理も病気の処置方法などが何も分からない状態なので、これから実習や講義で学んでいき、活用することができるようになりたいと思っています。牛の管理は、目で見て牛の体調を把握しないといけないので、それぞれの牛の体調が今どういう状態なのかを把握し、適切な処置ができるようになりたいです。そして、乳牛にストレスをできるだけかけないような管理をしていくことを心がけたいと思っています。問題を解決し、乳牛の健康状態を維持することで、病気の減少や安全なミルクを提供してくれることや乳量の増加する確率が高くなることでしょう。気温・風土などを配慮し、それぞれの牧場で様々な改善策を考え、実践することでその牧場の良さを生み出し、安全な乳製品を確実に消費者に提供でき、消費者の信頼を得られると思います。また、個人で試行錯誤することも大切だと思いますが、酪農家同士でも安全で効率よく生産できる方法を話し合い、協力し合うべきだと思っています。

私がもう一つ重視していることは、農業内でのバイオマスの循環です。牛のゲップには、大量のメタンが含まれており、糞からもメタンが発生するため、牛が増えると大量のメタンガスが発生して温室効果を高める原因になるということから、大量の牛肉を使用または廃棄しているハンバーガーがパッシングされたこともあり、環境保全をしていくことも大切だと思います。そして、これからの農業は、環境にも優しい農業にしなければならないと思います。たとえば、乳牛の糞尿を堆肥にし、田んぼや畑で利用して、田んぼで出たわらやもみがらを乳牛の下に敷いているように利用できるものを利用して、無駄の少ない農業を実践することで、環境に負荷をできるだけかけないような形態ができると思います。糞尿を十分に堆肥にできる施設がまだまだ数が少なく堆肥化が効率的に行われていないと

思うので、堆肥にできる施設をつくっていくべきだと思います。また、畜産廃棄物バイオマスである糞尿が堆肥にするのに多すぎる場合は、家畜の糞尿から出るメタンガスで発電などを行い私たちの生活の中で役立てていくことも必要だと思います。バイオマスの循環を考える時に、自分で考えて案を出すことも必要だと思いますが、昔のそれぞれの処理や利用方法について調べ、参考にすることで循環の輪が広がると思います。また、バイオエタノールの生産のために家畜の飼料であるトウモロコシなども活用されており、飼料高騰が続いています。飼料高騰が続く中で、家畜に食べさせる飼料を今後どのように得るのかを考えると耕作放棄地を開墾して、トウモロコシなどを作る圃場にしたりする工夫をすることで、酪農の規模拡大を図ることやその循環範囲が広くなり、また自給なので市場価格にほとんど左右されずに酪農経営をすることができるので、市場に飼料を頼り切っている酪農経営よりは安定した酪農経営をすることができると思います。

私が気になっていることの一つに、乳房炎治療などに使う抗生物質を牛舎から外に無処理のまま出し、生態系への耐性菌の広がりが確認されていることがあります。乳房炎治療などに使う抗生物質を牛舎から無処理のまま出すことで、自然界にも耐性菌が蔓延し、抗生物質が効かなくなりつつあります。環境への影響がある以上解決方法を考え、調査して効率のよい方法を見つけていかなければなりません。酪農と一言でいっても、乳牛の乳品質や乳量を高めることだけを考えるのではなく、これからの酪農は乳牛の正確な管理はもちろん、「牛舎外の環境を守る」つまり、家畜の糞尿や乳房炎治療のために使った抗生物質を環境に負荷をかけにくい形で処理または活用していかなければならないと思います。また、生態系を保つことで持続的な農業ができ、生息している様々な生物がいることで農業への利益にもつながっているものが多々あると思います。化学肥料や農薬を使った集約農法だと、自分で散布した農薬の被害にあったり、多投入多収穫がかえって農産物価格の暴落を招きコストが高くなると思います。これらのことから、私は化学肥料や農薬を積極的に使い多収穫を目指す集約的農法よりも、自然持続的なオーガニック農法をやっていくべきだと私は思っています。

バイオマスの活用も抗生物質の処理方法も小規模で個人個人でやっても、効果は薄いと思います。また、酪農の分野だけで解決できる問題ではないと思います。農業・私たちのライフスタイルまでの広範囲を視野にいれて、集団で酪農からの廃棄物の経路に問題がないか調査し、改善を行い、環境に優しい農業をするべきだと思います。集団といっても今の日本の食料自給率40%割れから分かるように外国からの輸入にかなり押されて、集団を作っても対抗するのに精一杯で余裕がない状態にあると思います。食料自給率を高めることで、酪農農家にも余裕ができるようになれば自然に環境保全に取り組む農家も増えていき、安全性が高く、環境に優しい農業を集団で

行えるようになり、日本の農業の性能を高めていくことができると思います。

また、酪農と聞くと第一に搾乳というイメージが私にはありますが、消費者が口に入れるところまで安全性や品質を保持していかなければなりません。逆に言うと、酪農は搾乳をすることだけでなく、それを加工してから牛乳・チーズ・ヨーグルトなど様々な製品に変わっていくところまで関連するところだと私は思っています。だから、製品でも組織の特色を活かした製品を作っていくことが大切だと思います。そうすることで、消費者にアピールをしていくことで製品の消費の増加につながっていくと思います。そして、牛乳の様々な効能などを表示して消費者に情報提供を十分にしていくことも必要だと思います。たとえば、カルシウムを多く含むことはもちろんのこと、牛乳の摂取量が多い人ほど体脂肪率が低いという報告があることやダイエットに牛乳が貢献するという調査結果も出ているということを知りやすく消費者に情報提供することが必要だと思います。他にも、牛乳には乳脂肪分が含まれていて太るということや牛乳は体に悪いという誤解を解くことも必要だと思います。それらを行うことで、乳製品の消費が上昇し安全性が高く、環境にも優しい製品を消費者に提供することができると思います。
